【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和6年12月17日(2024.12.17)

【公開番号】特開2023-119822(P2023-119822A)
【公開日】令和5年8月29日(2023.8.29)
【年通号数】公開公報(特許)2023-162
【出願番号】特願2022-22907(P2022-22907)
【国際特許分類】
H01R 12/71(2011.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ 12/71

【手続補正書】
【提出日】令和6年12月6日(2024.12.6)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
図７を参照すると、本実施の形態の相手側端子８０は、幅方向において２列に分けられている。換言すれば、相手側コネクタ６２は、２つの相手側端子列を備えている。相手側端子列の夫々において、５つの第１端子８０Ｆと５つの第２端子８０Ｓとがピッチ方向に沿って交互に並んでいる。２つの相手側端子列における第１端子８０Ｆ及び第２端子８０Ｓは、上下方向と平行な軸を中心として１８０度回転対称に配置されている。相手側端子列のうちの一方の第１端子８０Ｆは、相手側端子列のうちの他方の第２端子８０Ｓと、幅方向において夫々並んでいる。本実施の形態の相手側端子８０は、上述のように配置されている。但し、本発明における相手側端子８０の配置は、特に限定されない。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８８】
図１１を参照すると、本実施の形態の端子３０及び付加的端子４０は、ピッチ方向において交互に配置されているため、端子３０の被押付部３８を導電パッド５８に確実に押し付けることができる。但し、本発明は、これに限られない。端子３０及び付加的端子４０のピッチ方向における配置は、必要に応じて変形可能である。